



Challenge Zero



日本最大級のリサイクルプラスチック製造で サーキュラー・エコノミー実現へ

ヴェオリア・ジャパン(株)

リサイクルや再利用などを通じて資源循環と経済発展の両立を目指す「サーキュラー・エコノミー」。サーキュラー・エコノミーは、カーボンニュートラルへの世界的潮流が顕在化する中で、注目を集めている。こうした中、日本最大級のリサイクルプラスチック製造事業を立ち上げ、持続可能なサーキュラー・エコノミーの実現を目指すヴェオリア・ジャパンの取り組みを紹介する。

使い捨てから循環への転換を目指す パイオニアとして

ヴェオリア・ジャパンは水ビジネス世界最大手、仏ヴェオリアの日本法人として、2002年の設立以降、水・廃棄物・エネルギー分野においてサーキュラー・エコノミーに関する先進的なソリューションプロバイダーとして、自治体や企業の持続可能な開発における目標達成を支援している。

同社の事業範囲は上水・下水処理施設の運転維持管理から水処理施設のプラントエンジニアリング、省エネ・再エネ事業、プラスチックリサイクル事業と多岐にわたる。中でも2018年には豊田通商、小島産業と共同で、自動車や家電製品の破碎後のミックスプラスチックや家庭で使用されるプラスチック製品、工場から排出される資源プラスチック類を選別し、高品質の再生プラスチックを生産する日本最大級のリサイクルプラスチック製造会社であるプラニックを設立した。資源プラスチックの材料リサイクル(再資源化)を促進することで日本のサーキュラー・エコノミーの更なる推進を目指している。



プラニック社の工場

高品質の材料リサイクルの実現に 果敢にチャレンジ

リサイクルには材料リサイクルとサーマルリカバリー(熱回収)の2つがあるが、廃プラスチックの多くは、コスト面からサーマルリカバリーに向けられている。

プラニックの御前崎工場では、様々な種類のプラスチックを比重により選別することが可能な高度選別技術を日本で初めて導入。年間4万トンの使用済み資源プラスチックを再資源化し、自動車部品や家電製品などの原材料に使用可能な高品質の再生プラスチックを製造する。

再生プラスチックであっても生産効率を高めるためには、同じ材質の原料を大量に集める必要がある。自動車や家電製品のプラスチックの再資源化率を高めるためには、単一素材化や表示の徹底、手選別などが求められる。

こうした課題に対し、プラニックではスケールメリットと高度選別技術により、価格競争力を維持した再生プラスチックの製造を実現。自動車や家電からの資源プラスチックだけでなく、自治体が市民から回収したプラスチック製品、物流センターなどからの梱包材・コンテナなども対象に再資源化を進める。

中期経営計画「Impact 2023」で2023年に1500万トン(CO₂換算)の温室効果ガス回避の目標を掲げるヴェオリアグループ。同社のサーキュラー・エコノミー実現への取り組みは未来を見据えて続いていく。

k

(国内広報部主任研究員 山本哲史)